



アジア大都市ネットワーク21 ソウル総会の開催について

東京都知事本局外務部国際共同事業担当

アジア大都市ネットワーク21とは、東京都の呼びかけにより、デリー・クアラルンプール・ソウル・東京が共同で提唱し、2001年（平成13年）に設立された国際的ネットワークです。アジアの大都市が連携して、危機管理、環境対策、産業振興、人材育成など共通の課題に共同で取り組み、その成果をアジア地域の発展につなげていくことを目的としています。現在、バンコク、デリー、ハノイ、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、ソウル、シンガポール、台北、東京、ヤンゴンの11都市が加盟しています。

本稿では、2011年10月に開催したソウル総会、市民向けのイベントであるANMC21展、総会と連動した経済交流に向けた取組である「低炭素グリーン成長博覧会2011へのアジアゾーンの設置」について、ご紹介します。

①ソウル総会

～会員都市の首長等による年1回の会合～

当ネットワークでは各都市の首長などが出席し、原則として、毎年1回「総会」を開催しており、共同で取り組む共同事業の実施状況や成果の報告のほか、各都市に共通する喫緊の課題について、



【開会式】東京都・吉川副知事の挨拶



【特別報告】東京都の報告



ソウル宣言署名式

大局的な見地からの討議や具体的な取組の報告を行っています。

2011年は10月9日から11日までソウルで総会が開催され、東京都を含む10都市の代表（オブザーバーのロシア・トムスク市を含む）が参加し、中小型ジェット旅客機の開発促進・危機管理や感染症対策に関するノウハウの共有など、各都市が共同で取り組む事業の成果が報告されました。

また、「水辺開発による豊かな市民生活の創造」をテーマとした政策対話を行い、ソウル市から漢江ルネサンスプロジェクトの発表を行ったほか、バンコク、シンガポール、台北からも発表を行いました。

さらに、「大規模な都市災害に備えた防災対策の

強化」をテーマとした特別報告を行い、東京から「東日本大震災発生後の東京都の対応」及び「建築物の耐震化による緊急時の幹線道路の確保」について発表したほか、ソウル、マニラ、台北からもそれぞれ発表を行いました。

総会の議論はソウル宣言として採択され、アジア大都市間のより強固な連帯及び協力の推進に取り組むことを改めて確認したほか、水辺開発や大規模災害に関する各都市のノウハウ、技術及び経験を共有し、災害対策については、より効果的な防災対策の検討に取り組むことに合意しました。次回の総会はシンガポールで開催されます。

②アジア大都市ネットワーク21展 ～ソウル市民向け会員都市の魅力を紹介～

ソウル総会と同時期の10月8日から10月10日に、ソウル市南山韓屋村（ハノクマウル）の広場にて、「アジア大都市ネットワーク21展」が開催されました。このイベントは、アジア大都市ネットワーク21に参加する都市のPRを行うもので、



ヘブンアーティストの公演



東京都の和文化的紹介ブース



ソウル日本人学校のよさこい

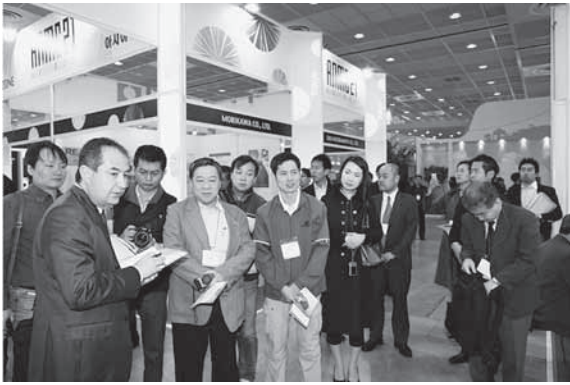
各都市の政策や観光、文化を紹介するブースの出展やステージで民族音楽やダンス、テコンドーなどのイベントが催されました。また、当ネットワークの事業の紹介や、ネットワーク会員都市の小学生在が描いた絵の展示なども行われました。

東京都は、この21展に2つのブースを出展しました。

政策等の紹介ブースでは、今年6月に世界自然遺産に認定された小笠原諸島のパネル展示を行いました。また、総会の特別報告に関連し、都の震災対策について紹介しました。

和文化的紹介ブースは畳を敷き、ちゃぶ台を並べた純和室仕様。竹とんぼ、けん玉、とんとん相撲などのおもちゃが所狭しと並べられ、ソウルの子どもたちだけでなく、海外からの旅行客も珍しそうに手にとって遊んでいました。PRグッズとして配られた紙風船も大人気で、都職員は現地スタッフに教えてもらった言葉で「プーンソン、プーンソン(風船)」と声掛けしながら配りました。浴衣の体験コーナーも設けられ、お子さんを中心にさながら撮影会の様相でした。さらに、イベント初日には日韓両国でご活躍されている三味線奏者の今藤珠美先生をお招きし、三味線の試奏を行うワークショップを実施しました。これには子どもたちを中心に参加をいただきましたが、近くの台北市ブースから参加しているスタッフも見受けられ、日本の文化への関心の高さがうかがえました。

さらに広場では東京都認定の「ヘブンアーティスト（大道芸アーティスト）」が大活躍。ジャグリングアーティストのミヤムさんは7つのリングを用いたダイナミックなジャグリング、仙丸・朱仙さんは傘で四角い枱を廻してしまうなどの江戸



ANMC21会員都市による視察



アジア大都市ネットワーク21・アジアゾーン

太神楽の見事な芸で盛り上げてくれました。

ステージではソウル日本人学校の小学生40名によるよさこいダンス、中学生17名による和太鼓・篠笛が会場を沸かせました。これらに使用された曲はともに日本と韓国の音楽要素がミックスされたオリジナルのもの。ソウルでの仲間との出会いへの感謝や、学校が日韓の架け橋になるようにとの願いがこめられているとのこと。見事な演技とともに、舞台と観客が一体となったような会場の雰囲気が印象に残りました。

③ 「低炭素グリーン成長博覧会2011」への「アジア大都市ネットワーク21・アジアゾーン」設置 ～会員都市間の経済交流の促進に向けた取組～

ソウル総会終了後の10月12日（水）～15日（土）の4日間、アジア大都市ネットワーク21では、会員都市間の経済交流促進に向けた取組として、「低炭素グリーン成長博覧会2011」（於：ソウル市内 COEX A&Bホール）に「アジア大都市ネットワーク21・アジアゾーン」（以下、「アジアゾーン」）を設置しました。

本博覧会は、グリーン産業育成と環境に配慮した生活実践により、2029年までに温室効果ガスの排出量を30%削減することをスローガンとして、韓国政府環境部（※日本の環境省に相当）が主催する、親環境、低炭素に関連する幅広い分野を取り扱う見本市です。環境分野において、韓国国内で最大級の展示会であり、2011年は203社712ブースが出展しました。

アジアゾーンには、韓国への進出を検討している優れた環境技術を持つ東京の企業12社のほか、

フィリピン、ベトナム、マレーシア、台湾の企業や貿易促進機関4団体、計16団体が出展し、革新的で将来性のある企業の製品、技術を韓国市場に向け、アピールしました。

会期中は延べ約4万2,000人が来場しました。東京の中小企業各社ブースにおいては、東京の企業と現地企業とが代理店契約や技術提携等、継続的なビジネス関係の構築を目指しての商談が連日多数行われ、盛況を呈しました。

その他、東京下水道の優れた技術（水面制御装置）を紹介するブースやANMC21広報ブースを設置し、アジアゾーン設置を含むANMC21の活動のほか、東京都の環境関連施策を紹介しました。

韓国国内においては、2010年1月に「低炭素グリーン成長基本法」が制定されて以来、一般市民の環境に対する関心が高まっているのか、会場には多くの学生や市民の来場もありました。

来年度以降についても、ANMC21会員都市において開催される見本市に「アジア大都市ネットワーク21・アジアゾーン」を設置し、引き続き経済交流の促進の一環として取り組んでいく予定です。

なお、本事業の実施にあたっては、クレアへの活動支援依頼により、ソウル事務所の多大なご協力を頂きました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

アジア大都市ネットワーク21事務局

<http://www.anmc21.org/>

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都知事本局外務部国際共同事業担当